7
アタゴオル玉手箱
ますむら ひろし
MOE-SHUPPAN
MOE
コミックス
アタゴオル玉手箱
7
ますむら ひろし
MOE出版
ISBN4-89594 317-8 C0079 P880円 定価880円
(本体854円)

山形県米沢市市制100周年記念ポスター

H. Masumura

ATAGOUL

メニュウ

キリエラ戦記

キリエラ戦記

キリエラ戦記XI

転　移

ああ……
シュル
シュ
シュル
シュ
まるでマユみたいだぜ
ひえっ
シュル
シュル
あっ ヒデヨシ

ありがと
早くこっちだっ

博士
どうした!?
船長が
網樹の脳神経に
まきこまれた

なんだと!

シュル
シュル
くそっ
これじゃ
中には・・
入ればお前も
まきこまれるぞ

くっ・・・
船長……

博士
いったい何が
あったんだ
派手な服を着て
ふとった猫が入ってきて
止めるのも聞かず
脳に向って銃を撃ったのじゃ

ヒデヨシの野郎

うっ
なんだ
シューッ
いかん、熱を
上げ始めた
シューッ
シューッ

早く
網樹から
出ないと
ワシらも
やられるぞ
いったい何が
始まったんだ
説明はあとだ
早く外へ

熱じーっ
これじゃ
先が見えねえぜ
シューッ

うっ…
なんだ
この煙…
フラ

バタッ

コラ霧尾
しっかりしろ

網樹が煙をあげてるぞ
まるで火山の噴煙みたいだな

いったいどうしたんだ
だれも出てこないぞ

ムリじゃよ…
あの熱の中で
吹き出してくるのは
一種の催眠ガスなんだ

催眠ガス！
ああ…ワシは網樹の脳神経を
摘出して実験したんだが

あの神経に
大きな刺激を与えると
催眠ガスを放ち
そして
まきこむんだ

まきこむって…

眠らせた体を
網樹は体内に
とり入れてしまうんじゃよ
それじゃ
仲間はみんな！

なんてことだ！
だからワシは網樹をあつかうのは危険だと船長に言ったんだ

！
まったくもうねてんじゃないよ

あいつ…
信じられん催眠ガスの中を…

コラ、霧尾起きろ

おい、ヒデヨシお前を永遠に眠らせてやるぜ
あっ葉っぱ男

敬愛する銀波船長を貴様よくも

プソ、網樹の枝をよけられないようじゃ
助かるものも助からないぜ
なんだとっ
ドングリ弾をくらえっ
ガチ
ポロッ
あら・・ぶちこわれた・・・
こうなったらアタゴオルの名刀「やっつけ丸」の登場だい
！
うっ

あ〜っ
「やっつけ丸」か

さあ
今度は
その巨木のような
お前の腹を
粉々にしてやるぜ

助けてくれ
葉っぱさーん
ヘタ

そんなこきたない涙を
流してもムダだ
さあ、冥府に落ちろ

待てっ
葉座

あっテンプラ
何しに
来たんだ?

お前を
助けに来たんだよ

うあっ

腕が
痙攣するっ

ヒョーッ
霧尾
ずらかろうぜ

コラ薬座
命だけは
助けてやるぜ
くっ…くそ

あの少年は
キリエラを自在に
あやつれるのか…！

…なんとかして
あの網樹を動かして
みてえなあ
あんなもん
動かして
どうするんだい？

この大陸の北には
「胸の海林」という
巨大な密林があってね
今まで通りぬけられた奴は
いねえんだよ
オレは網樹を使って
横断してみたいんだ

「胸の海林」…

ああ
銀皮がこの
ゴランドア海林国に
手を出せなかったのは
その森の力が
からんでいる
らしいんだ

ノーム

あらん
煙は止まったけど
あちこちユラユラ
し始めたぞ

博士…
これはいったい!
ああ…
網樹はまだまだ
成長をしていく
ということだろう
ノバ
ギギ
ギギ

鉱物が高温の中で
植物みたいにのびていくぞ

こいつは
生きている…
まるで生命を持った
一個の星のようだ

うっ
パキッ
船長っ
幻影じゃないのか
いや……
たしかに今……

ゴゴゴッ
バギ
バギ

オッ
網樹が動き出したぞ

あの方角は・・
ゴゴゴゴッ
まっすぐ行けば
酸素サンゴの町だ

知らせましょう！

ようし
行こうぜい

なんじゃ
ありゃ
ブタのバケモノ
じゃねえか

ザザザーッ

大変よ〜っ
網樹が来るわよ〜っ

ハハハッ網樹って
あの伝説のキリエラの
網樹かい？
何、寝言
言ってんだよ
それより
タコ買わねえか

あら
うまそーだ
ねーっ
それどころじゃ
ありません！
みんな早く
避難の用意を

ネーちゃん
だいじょうぶだよ
この町は
堅い堅いサンゴで
できてる町だよ

何が来たって
こわいものなしさ
うあっ

オッ
スゲーッ
なんだこれは?!

網樹が成長したんだ‥

キリエラ戦記XII
光波の都

ドドッ

バパパパ…
バケモノだ

キャーッ
かっこいーっ

こうしちゃおれん
早くにげろっ
コフおやじ
この町は
堅いサンゴでできてるんだろう

あんなもんに
ふまれたら
もたねえよっ

ヒデヨン
何やってんだ
ワーーッ
ヒデヨンくん
早く
来なさい
ほっとけ
網樹にふまれても
死ぬ奴じゃないぞ
行こう
ペッ 憶病者め
オレはにげないぞう

しかし
なんであいつ
急に根性
出したんだっ
目先のことしか
考えてないのさ

くくくっ

こんなうめもの置いて
にげるなんてできないわ
ハグハグ
ズシン

うまい
タダ食いは
実にうまい
ズ

ゲッ
来たっ

こらっ
魚をふむな
食い物を
そまつにすると
幸せになれないぞ

ド
ズ

あ〜っ
めちゃくちゃだ
ドド
ああ、

なんだか
心配だね……
オーイ
ヒデヨシーッ
町が……
ワンの家が…

あっ…紅マグロがぺちゃんこ…
んっ

むっしゃ
むっしゃ

あっ……あきれた奴だなあ…

どーだ パンツ オレは本物の度胸のすわった男だろう
まったく本物の食欲のすわった男だよ

ズ ー ン

もーーっ
かっこいい奴
だなあーっ
動かして
みてえよっ
動かしたいけど
もう手におえない
んじゃないか

しかし
いったいだれが
動かしているんでしょう

脳にまきこまれた
銀波船長の
意志でかな・・

そういえばたしかに
銀波は この国には
手をやいていた
からな・・・

網樹の奴
まっすぐに
光波の都に
向っているぜ

・・博士
ほんとうに
だいじょうぶ
なんだろうな・・・
ああ・・熱が下っている間は
催眠ガスは吹き出さない・・・

しかし…みんながのみ込まれた網樹に再び入りこむとは博士の勇気もたいしたものだな
ワシはこいつの正体が知りたいんだ
船長
うっ
だいじょうぶですか!
ああ…意識はあるが オレはもう個体ではない…
えっ

博士…
こっちもなかなかいい気分だぜ
体が消えて気持ちだけがフワフワしてるってのはよ
うっ…砲手のジョッカ
ジョッカ 網樹はそこにいるのか!? 網樹と話すことはできるのか?
…網樹…
たしかにオレの中をおかしなものが行ったり来たりする……そいつが網樹かもしれんが…
ようし…呼んでみよう
オイ網樹 イリガリ博士がお話をしたいとよっ
ドドドッ
うあ

しかしよーっ あんな大砲ならべたくらいで 網樹が倒せるわけ ねーよなーっ

光波の都が 誇る光波砲は 無敵だよ

一説によると 大海賊銀波でさえ にげだしたらしいぜ

……そうか……

霧尾 何がそーかなんだよ

この町は光にあふれ ピカピカしてる だろう

すべて　あの光の球から
とった熱や力で輝いて
いるんだよ・
光波砲の弾も
あの熱で作っている
らしいんだ・

……何か・
・変なものが…
入ってるみたい…

ああ・あの中身は
だれも知らないんだが
これで　もともと
どこにあったものかは
わかったぜ
どこに
あったんだい

たぶん・・
この北に広がる密林
「胸の海林」の中だ

オッ
光波砲の
試し撃ちが
始まるぞ
ホラ　東の
岩山を見ていな

発射

ズ
すごい
わおう
岩山がブッ飛んだぜ
早く来い　網樹　ブッ飛ばしてやるぞ
…なんか変だなあ…
どうしたのテンプラ君・・キリエラが!?
ああ　少し熱くなってきてるんだ・

熱を……
……
変だねえ…
オ

来たぞ

行くぞ
光波砲で
歓迎してやれっ

発射
用意

行けーっ
ぶちのめせっ

発射

バチッ
バチッ

ああっ だめだ きかない
光波が 吸いこまれて いくぞ
あっ…… 網樹の腕が!!

バキ
バキ

あの光波は 網樹を成長 させるんだ
撃てっ
ドッ
コラ撃つな
撃ったら網樹が デブになるぞ

うっ…
あぶない
早くにげて

ズーン

うあっ
撃ち返してきた
みんな にげろーっ
魚屋は必ず
にげるんだぞっ

なお魚屋は
魚を置いて
いってねっ
持っていくと
網樹が追っかけて
いくぞーっ
おめえ ヨダレたらしして
でたらめ言ってんじゃないよ

網樹が近づいてきます
ただちに避難して下さい
ワーッ

くそーっ
まっすぐこっちへ
来るぞ
…もしかしたら網樹は

あの光の球を
ねらっているん
じゃないかな

くっ…光の球を
あいつが飲みこんだら
……恐ろしい力に
なるぜ

なんとかしないと
大変だな…

キリエラなら
守れるかもしれない・

キリエラ戦記XIII
網樹の右腕

ズン
…かなり くっきり…
見えるようになったぞ
あの胸を
やってみよう

ワオッ
管がブチこわれたぞーっ

足の動きが
止まったぜっ

あっ

みんな早く逃げて
うあっ
うっ
テンプラ君あぶないっ
!
おっ

くそーっ
テンプラ 吹けっ
吹きまくれーっ

オッ……
やった
止まったぞ
休むな
テンプラ
網樹を
バラバラに
しろ
フーッ…
…よし!!

バチッ

ズドドッ
やったっ
行けっ
テンプラ
バラバラに
してしまえ
ちょっと
休ませろよ…これ
すげえ神経使うんだぞ
えーい
ナマケ者め
オレに借せ
あっ
バッ
コラ
ヒデヨシ
何する気だ
中から吹いて
ぶっ飛ばして
やるのさっ
やめなさい
君も破裂するぞ
オレは
言うこと
きかん猫

うははは、網樹
腹の真ん中から
ぶっ飛ばすぞーっ

葉っぱ男

うっ

おまえまで
やられてしまった
のかーっ
コラッ
しっかりしろ
・・早く 逃げろ
ヒデヨシ・・
オレの体の中に
変なものが・・
入りこんでくる・

くっそう
今 出して
やるぜっ

くらえっ

オソ

うぐっ

キャン
うあーっ

いっ

葉っぱ男が
中でやられてるぜ
えっ
あいつが！

テンプゥ
たいへんだ
網樹の腕がっ
なっ

あっ
光の球がっ……
ピキッ

バチバチ

ズズズズッ
ああ

網樹の腕が
ふくらみ出したぞ
みんな ここは
キケンだぞ
早く むこうへ

バキキッ

2日後

まるで火山みたいだな
まったく…都がすっぽり網樹の体に包まれてしまったぜ

ああ…わしの家が…くそーっ
ホレホレおっちゃん嘆いてないで

銅貨2枚の
このナベで
うまいもんでも
食ったら
元気になるよっ

こっ・このナベ
どうしたんだ?
決死の覚悟で
網樹でうまった町の
スキ間から
運んできたんだよ

オイッ これは
ワシの店のナベだぞ

え〜っ
ナベッ ナベは
いかが〜っ
コラーッ
苦労して
運んだのに
おだちんは
ナベ一個かよっ

な〜〜んて
セコイ男なんだ
セコイのは
おまえの方だよ

キケンをおかして
網樹の町に行って
ナベなんか持って
くるなよな
まったく!

オレだってホントは
酒屋と魚屋がめあてで
行ったのさっ
でも見つからなかったのさ
みなさ〜ん
ツキミ姫を
知りませんかっ

見かけ
ないよ
そういえば
朝早く
飛行船を出て
行ったけど…

くっ…ぬぬ…
まさか
ツキミ姫
町の魚屋を！

コラ——ッ
オレにも食わせろっ
ゴ——
何考えてんだ
あいつは…

いそげ
全部ツキミ姫に
食われてしまうぞ
ガザザサッ
魚はみんな
オレのもの——っ
らっ

ツキミ姫
魚はどこだっ
魚?

私 魚なんか探してないぞ
このあたりが‥どうも変なんだ

変

変なら‥別にいいよてっきり魚屋かと思ってさーっ
あっ

うっ‥あらら?
網樹の根がのびてきてるんだ‥

ホーッ この根っこ 町と反対の方向に のびてるねえ
ガサザッ

ギョッ
………
なんだ これはっ

……タマゴ みたい…
網樹の タマゴ…

野郎 ぶっつぶして くれるっ
この この
ガッ
ガッ
くそーっ しぶとい奴め
ピッ
パリッ

なんだ
これはっ

キリエラ戦記XIV
熱の方角

ブーン
見たことのない
虫だな…
くふふう
見たことない
虫を見たら
とりあえず
食ってみる
うりゃ
ガシッ

ぐぁ
ビビビッ
バダッ
だいじょうぶか？
くそーっ手がシビレたぜ
おのれシビレトンボめっ
ガサ
あれ…
きゃならず食ってやるずえい
なんだろ・・？
！

シャコ
シャコ
ザ
ズズッ
ザ…
ズズッ
ズッ
うあ…
こんな生物群…見たことねえぞ
植物を食いまくっているぜ
土も…土も食ってるぞ
ズズッ
ズズッ
シュー…!!

ス〜
トン

パカ

種だ

すげえ早さで繁殖していくぜ…

イヨーッ諸君さわるでない
新種の虫はみ――んなワシのもんじゃぞう

おい、ヒデコシスミレ博士ゴッコしてる時じゃねえぞ

超博物学の真髄をわからん子どもはどきたまえ

バ
ジ
ジ
ヌフフフッ
超博物学の
分析法は…
ジジジーッ
ホホホ
鳴きたまえ
その鳴き声が
胃袋を刺激するっ
ワシの胃袋の中で
溶かしながら調べるのじゃ
あっ
グア
バチッ
バチッ
ゴロッ
くそ〜っ
シビレ虫どもめえ
食って
やるぞう

それから4日後

ズズズ

にげろーっ

ズズ

バリン

おかしな虫だなあ…
カサ

スー…ッ

うっ

早いとこ手をうたないと大陸がメチャメチャになるぜ
どこかメチャメチャなんだえー、パンツ君
見たまえ このドンドン広がる光景こそ、ワシの求める「美」じゃ

何をのんきな…いいか こんなものが広がっていったらやがて海中の…魚もタコもみんな死んでしまうぞ
何っ!!

イッ、イカン断じてイカンぞっ
テンプラ君親方が急用です
えっ唐あげ丸さんが…
なんだろう
?

姫 なんとかしてくれ
魚を守ってくれえ

この生物たちの発生原は網樹よ
網樹を壊滅させるしかないぞ

よーしテンプラにキリエラをブカブカ吹きまくらせて
網樹の野郎をゲンゲンにしてやろう

たしかに破壊できるかもしれないが…あいつの再生能力はスゴイぜ
たった4日で腕がはえてきてるしな…

そうだね…何かもっと決定的な方法を…
イヨーッみなさんすごい景色ですねえ
あれっ親方

アンブラに
急用じゃ
ないんですか
別に用事なんか
ないですよ　私は
朝からこの景色の中で
バイオリンを弾いてたんです

……
変だな

ヒデ丸
唐あげ丸さんは
どこに…
うっ

あれ…
オイフ…
なんで
こんな所に？
えっ

うっ
スルルル
うあっ
ギュ

テンプラくん
あっ
うっ
バキッ
!
早くにげてっ
・オイラさっぱり憶えてないんです
催眠術か何かをかけられたんだね
でも・いったいたれが？

たぶん…
網樹だろう

網樹が——!!

そうか!!
網樹は
キリエラを吹く
テンプラ君が
じゃまなんですね

あれ…
やっぱり…北へ
少しずつ動いてるぜ
北というと
「胸の海林」を
めざしているって
わけか…

ああ…
光の都を動かしていた
光球の熱は たぶん
その海林から
運び出したものだ

網樹が海林にたどりついて
大量の熱を手にしたら・・

たぶん…
世界はすべて
網樹の生物たちで
うずまるだろう…

ゆるさん
ワシぁゆるさんぞ

本当に
網樹を倒せるんだろうか…?

おかしいな…
キリエラが
また 熱く
なってきた…

こっちだ…
この方角をさすと

「胸の海林」の
方角を向けると

あっ

この旋律は……

んっ
コツ

キリエラを
もらいに来たぜ

キリエラ戦記XV
突　入

銀波船長

何を言ってるんだ
あなたは自分を見失って、網樹にあやつられているんだ
ホウ
何者にもあやつられないような言い草だが……

無数に流れて来る言葉や大いなる時代の流れにおまえは決してのまれていないと言えるのかい?

オレは網樹に同化してつくづくわかったぜ
いいかい小僧

網樹こそ文明そのものなのさ

あれが文明だとっ!!

そうとも
大量の土や鉱物を食い
いくつもの森の木々を
食いつくしながら
広がり続けるんだ

これら新種の生命体が無数に発生して
この星をおおいつくした網樹を母体としながら 新しい生命循環を続けていくのさ

自然が消えても生き続けるなんてまるで死の文明だな

そうとも…永遠に続く死の文明なのさ

そんな偉大な文明でもキリエラはじゃまだってわけか…

動くな!! ……おとなしくキリエラを渡して網樹の一部になれ
この眼鏡を通して見えるあんたの体は

たしかに
人間の体をしていない

心臓も肺もないし…
腕の管は銃にくっついてる…

たいした眼鏡だな

オレはあんな
バケモノの一部になる
のはゴメンだぜ

！

スッ

ドドッ

くっ
ドッ
テンプラくん
どうしたんだ
…フウ…
網樹と化した
銀波船長が
おそって
来たんだよ

…オイ…
オレも網樹も…
不死身…だぜ…
永遠に続く……
死の文明だ……
………
朝だ──っ
やんぞ──っ
網樹を
ぶっとばして
やんぞ──っ
んっんっん
コラ
ヒデヨシ

あんた こんな時に
酒なんか飲んでんじゃないよっ
コフ テマリ
戦いは祭りだぜ

祭りに酒はつきものよう

ウホホホッ もも もっ
網樹なんかこわくないいっ
あら
唐あげ丸さんまで

緊張のあまり
飲んでしまいましたっ モーッ
こわくありませんっ

ヨーシ
諸君
待たせたな

それではただいまより
ヒデヨシ船長からの
出陣のご挨拶です
ペっ

コラ〰〰ッ
オレの話を
聞かねーと
網樹にやられるぞォ

ら

ホレホレ酔っぱらい
早く行かないと
船が飛ぶぜ

コラーッ
待てーっ
ついて来るなら
静かに来なよ

あららん
なんだい みんな
赤いドングリ
ぶらさげてえ

ツキミ姫が
きのうの夜
作ったもんさ

ヒデヨシ君は
3個つけないと
だめね…
デブ
だからなあ

デブでけっこう

網樹に入る時
ここを押すん
だよ

う〜っ なんなんだ
く〜っ 楽しみだわ
ぺん
ぺん

網樹の入口に
ついたぜ
動いてるぞ
気をつけろ

これを
押すんだな
カチ
カチ

さあて…
脳ミソ探しの…
始まりだ…

オッ

オーーッ でかした姫!!
こいつは楽でエーゾー
網樹から離れていると急にのみこまれたりしないからね
ゴッ
痛で
うぐ
ガッ

ドドドーーッ
ドッ

ホホホッ
撃ってやる
撃ってやる

撃ってやるーっ
ドドッ

ゴッ

うあっ
バキッ

だれか
早くっ
唐あげ丸
さんをっ
しばるんだ

親方しっかり
ゲッ

ゲッ
ゴキ
くそーっむずかしーよ〜〜〜っ

しょうがねーなあ
そんなにぶつかっていたんじゃ壁に気づかれちまうぞ

シューッ
来たぞ

くらえっ
ドッ

いそいでっ胞脳室はこの上だ

この上が脳ミソ部屋なら
こっから穴あけて
やるぜーーっ
ドドッ
ズン
うぬぬっ
なんてブ厚い壁なんだ〜〜っ
ミシーーッ
!
くそっ
ドドッ
あっ

うあっ
霧尾っ

キリエラ戦記XVI（最終回）
透明な信号が見える？

霧尾ーっ

ぐあっ

天井の壁が
葉っぱ野郎
だぞーっ

…こまごま動かねえで
…お前たちも
網樹の一部になりな…

るせい

ドッ

霧尾ーっ

アラーッ…
なんだこれはーっ

前に来た時と型が違うぞ

こいつ…成長したんだ…

うああ
霧尾、いま助けてやるからなーっ
あれっ

どうしたんだ体がカチカチだぞ

くっ……体が動かない

これは…！

この空間に入った者の脳は私のものだ…

私の脳神経に
外から刺激を与えているのか…

ホホウ…
娘…お前はなかなか
強い意識を持っているな

くそーっテンプラ
キリエラを吹けーっ
だめだ体が
動かない

ムダなことは
やめろ
しょせん、お前たちは
退化している
存在だ
退化している!?

ああ…私は、無数の
小さな脳を吸いとるたびに
その脳の使われていない部分に
うちこまれている情報を
手に入れ…わかったのだ

遠い昔…
胸の海林の奥で
作られた熱の光
……
それをもとに
作られたキリエラ
…そして
私の設計音符

いいか…
過去は今のお前たちより
すぐれていたのだ

キリエラは
胸の海林で
作られたのか…

なーにがすぐれて
いるもんかい
とっくの昔に
みーんな滅んじ
まったじゃねーかよ

そうとも
あらゆる文明は
滅んでいく…
だが私は
滅びはしない…

この星が
わたしという一個の生命体に
なるのだ

じょーだんばっか
言ってんじゃ
ねーよ
この脳ミソの
ミソ団子

さあ
お前たち
私の世界に
くるんだ…
スーーッ

うあっ
くそーっ
あっ…
また
浮かんできた
テンプラ君
それは⁉
キリエラを
胸の海林の方角に
向けると、旋律が
浮かんでくるんだ
えっ
胸の海林の方角に
向けると、浮かんでくる⁉
吹けーっ テンプラ
それを吹けーっ
だめだ
体が‥
テンプラ君
私にっ‼

……この旋律…
私の意識をふりきるとはお前はいったい…!!
これを吹けば…
娘よどんな旋律を吹こうとも私にはムダなことだ
さあ…お前のそのすばらしい脳をいただこう
!

ツキミ姫っ

ぐわーっ
ツキミ姫どころじゃ
ねーぞーっ

オレを
助けてくれーっ
網樹様ーっ

ギョッ

痛でででっ
しめつぶれんぞオ～ッ
グアッ・・・
うあっ
ワオーッ
くずれたぞっ
網樹の脳ミソ
ぼーろぼろっ

また再成(さいせい)するんじゃないか
うっ

これは……

くずれてく・旋律(せんりつ)をあげながらくずれていくぞ

キャッ

いそいで早(はや)く外(そと)へっ

キャーッ
ズズッ
すげえ

全身から旋律が流れてる…

うはははっ
網樹がくずれていくぜ

地上の生物群も
旋律をあげて
いるぞ

キリエラの中に網樹を分解する
旋律がかくされていたのか……

生き物が生き物を
殺す時
脳の中を流れる
旋律だよ

どーりで気持ち
悪いわけだ

あたり一面
激しく流れていた旋律も

やがて
消えていき…

いやーっ
やりましたね
ビデヨシくん
ウホホッ
オレがぶちのめして
やったのさーっ

あらっ

耳が
おかしく
なったのかな

草からも
土からも

ワクワクするような
音楽が聞こえて
くるぜ
ああ
オレもだ

たぶん
さっきの旋律を
聞いたので…
耳がするどく
なっているのよ

この湧き続ける旋律は
成長する生命が
脈打つ旋律だね
いいねえ…

この旋律の群れ
風に関係なく
北の方角に
流れていくぜ
オッ
ホントだ

あの方角に
何があるんだろう

あの方角にオレたちの帰る場所さ

気圏散歩

まいったなあっ
かなり東に流されてるぜ
なおらないんですか……
ヒデ丸が手動で動かしているんだけど…
なにしろヒデヨンの奴はしゃぎすぎておもいっきし方向決定器にぶつかったからなあ

タコ・イカ物マネ大会なんかやるからだよ

うっ……
このみっちりとくさったダンゴのようなニオイは…!!

ハーイ
みなさん
お早よう
さーん
プーン

コラ ヒデヨシ
部屋から出るなって
言っただろ
出たかったら
風呂入れよ

もう汗っかきのくせに
2ヶ月以上 風呂に入んないから
くさくってたまんないのよ
ねえ 酒飲んでていいからさ
船の外にぶらさがっててよ

おっと
それは名案
あんこの子

雲の海に浮かびながら
酒を飲む…ムフフッ
最高だーい
最高ーっ
くーっ…
このモコモコ
した雲が

ずぇーんぶ
餅だったら
な〜〜〜っ
そしたら
お日様でたっぷり
あぶってよーっ
でーっけえ海苔で
くるくると・・
らっ
ポロ
あ〜〜〜っオレの
酒ーーーっ

その翌日
だめだ

見あたらないなあ…
もうどっかの地面に降りてんじゃないのかな

たぶん降りてないぞ
ヒデヨシ君が背おってる気砲ドングリは3日はもつからね

このあたりが気流の吹きだまりみたいですよっ
よし…船をここに停船させて探してみよう

見てすごくきれいな大気よ…

ホント
まじりっけのない
いい空気だなあ
あれ

イコー諸君
君たち 雲見だね
雲見？

いや……
デップリふとった
猫を探しているん
です

ふとった猫っ

ヒデヨシを
知ってるん
ですか？
知ってるもなにも
ワシは昨晩 飛ばされて
きたあいつを助けたぞ

うあ…
感謝です
それで
ヒデヨシはどこに？

店の酒かっぱらってにげてったよ

えっ…

あんたたちが払ってくれるとはのう…
たしかに300銅貨
たくもう…

あれ…
これは…

おっ…
あんたには見えるのかい!?

ええ．

見えるって何が？

悪友の金を払った君たちだよろしい
君たち こっちへ来たまえ

さあ・この中にある三日月貝を一つ選びたまえ

・オレもだ

なんだか これフワフワしてますね
それを胸につけてごらん
こうですか…

あれ…なんだか妙な気分になってきた……瞳が温かいような…

うっ

……これは……

あれっ

…きれいだなあ…
空の海だね…

見て…このあたりサンゴが死んでる
うあ…ボロボロだ

うっ…このニオイ
あっ…ヒデヨシ!! ヒデヨシのニオイだぞ
そうか…
空気がきれいじゃないと…サンゴは死んでしまうんだ

うああ・・
だめだ・
ここいら一帯
死にかけてるぜ
ニオイがだんだん
強くなってるぜ
早いとこ
あいつを見つけ出し
回収しないと
みんな死んじまうぞ
助げで
ぐでーっ
あっ
あの声は
ヒデヨシーッ
ああ～っ
早くあのデブを
なんとか
しないと…
ギャーッ
あっ
ヒデヨシッ

助けでぐでーっ

ゴーーッ

三日月貝たよ　あの貝は
あの渦の中で成長するんだ
だが…早いとこあのデブ
引っぱり出さねえと
みんなくさっちまうぜ
私が
やってみよう
えっ
あんたが？
助けで
くれーっ
!
ぶっ
バチッ
ひえーっ
出たぞ
早く 袋に

ぐぞーっ
なんで
こんな袋に
入れるんだあ
お前のニオイでこのあたりの
サンゴや生物が死滅するからさ

オニヒトデみたいな奴だな

とっとと
持ち帰って
下さい
どーも
すいま
せん
ペコ

コラーッ
オレは
ゴミじゃ
ねーぞーっ
ゴミというより
タコ壺に入った
タコみたいだぜ

う〜〜っコフ
オレがタコなら
お前たちは
何だってのよっ!

オレたちは
もちろん
空を泳ぐ魚さ

魚もいいが
タコも
すてがたい

このあたり空気が
澄みきってるんだな
サンゴが生き生き
してるぜ

ああ
……

しかし…三日月貝をつけずに
この風景が見えるんだから
ツキミ姫の瞳ってすごいなあ

大空の雲がしみ込んでくる気分……

砂の海

わおう
見えてきたぞ

…旅の最初から最後まで身勝手なやつだなあ…

あ〜〜〜っ ついたっついたわよーっ
ゲッ あの声は!!

あーっ ヒデヨシが帰ってきた
こりゃあもう食い物 外につるしておけないな…

うあっ
コノヤロッ 帰ってきたのかっ
うははは… スキだらけよーっ

さてと……まず…帰ってきて一番最初にすることは
パコン

さっそく
家に帰って
ムッシャラ ムッシャラ
食ってやるずおう
らっ

なんだ…
こりゃ…!!

オレの家が
なくなってる
ぞ……

よう…帰ってそうそう
魚ドロボウか
それどこじゃ
ねえのよ
オレの家が
盗まれちゃったのよ

バチがあたったん
だろーっ

ぐぞーっ

3ヶ月くらい前に
あそこを通った時には
なくなっていたな…

ぐぞ〜っ
絶対とっつかまえて
やっからな〜っ
しっかし
あ〜っ猫正宗は
うめ〜なあ〜っ

ところでオクワさん
アタゴオルは
変りなかったかい
まあな……
そういえば
ハッカ森のあたりが
砂の海になってるぞ

砂の海？

ああ…2ヶ月くらい
たつかなあ……
砂が波打ってるぜ

ザザッ
ザザーッ
スゲーッ
ホントに砂が波打ってるぜ
いったいどうしたんだこの砂は…‼
子どもには解けんぞ
このスミレがこのヒゲにかけて解いてあげようぞ
ボボン
ボン
ボン
あれ……このボンゴの音…
ゲッオレのじゃねえか
オレのボンゴをだれかたたいてるぞ

ボン
ボン
ホラ もっと左によって
くっそーっ
ドロボウ野郎
とっつかまえて
やんぞーっ

あれっ……
あそこ

うっ

ボンボン
ボン
ボン
オレの
家だ!

静かにしろ
気づかれるぞ
くそーっ
ふちのめ そて
くれるぞ

ら
ボン
ボン

ボン
ボン
豆猫族だ

くそーっ
こいつらが
オレの家を
かっぱらったのくあ

これはこれは・・
怪物ヒデヨン様
よくござった
ことーっ
あっ
コノヤロ
よくも
オレの家を!!

※豆猫語…ごしゃぎだい（おこりたい）

きったねえぞ
テンプラも
しばれよなあ

あの人は
オレたちに
敵意ないから
歓迎すっこでえ

ささ
もひとつ
どうぞ

どーも

でっけー

あれ・・・
あそこにあるのは・・・

あれは
市場の
テントだよ

・・しかし
この酒ずいぶん
いい味だねえ

豆猫
ドブロクだず

何がテントだ
オレのお気に入りの
ズボンじゃねえかよ

オレにも
飲ませろっ

そんじゃ
ちょぴっとだぞ
トッ
トッ

うめ〜〜〜っ

…いいがっ
じぇったい約束
守れよな
守んねど また催眠術
かけでやっからな

うへへ…
こんなうめえ酒が
飲めるなら
あんな家
いらねえぞーっ

あれ
あそこに
あるのは…

ザ
砂が…
吹き出して
るぞ…

あれは豆猫族に昔から伝わる「砂壺」でなっ
新しいこの住み家をヒデヨシ様みたいな怪物から守るために砂の海を作ったわげよ

砂壺は別名〝たまげたの壺〟とも言う
これはこれはベジナ様

たまげたの壺

いかにもおどろいた たまげたとはという意味じゃ
よろしい…君たち～たまげたの壺を見せてやろう

いーか そのマントは返せよな
よいしょ よいしょ
くっせっ マントだな
しっかし怪物ヒデヨシ様はさっぱりおどろかねえんじゃないべか

サーッ

オレのマント壺にくるんだりして何すんのさ

ザーッ

あっ オレが
水晶ザメを
とっつかまえた
時だ…
それにテンプラが
卵貝につかまった時
あれは
笑い草だ
こりゃあいったい
何なんだ

たぶん…
蜃気楼だ

そうとも…あのマントを
まとっている時に
おどろいたできごとが
砂の鯨から
蜃気楼になって
吹き出してくるんだよ

…あのマントを
していた時に
いろいろと
ビックリして
いたんだなあ

いよいよ……
一番深くおどろいた事が
吹き出してくるぞ

ホウ…これが…!!

…フーム……
なかなかな奴め…

何がビックリするったって
…オレが何度も
ドキッとすることはね

夜がくると あんなにきれいな
月が昇ってくることさ

初出

●

P.1／バンド"Mr.クリスマス"CDジャケット用
P.2,6／「王様手帳」(アド・サークル)
P.4／宮下富実夫『奏奏記』(有限会社・村松刊)カバーイラスト
P.6(下),7／描きおろし
P.8／山形県米沢市市制100年記念ポスター
P.15〜146／「月刊MOE」(MOE出版)

●

(P.10の地模様はウィリアムス・モリスの図版より)

アタゴオル玉手箱——7

発行　一九九〇年六月　一刷

作者　ますむら　ひろし
発行者　榎本司郎
発行所　(株)MOE出版
〒162東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3—5
電話・〇三(二六〇)三二三〇(編集)
〇三(二六六)八六九一(営業)
FAX・〇三(二六〇)一〇四〇

印刷　大日本印刷(株)
製本　大日本製本(株)

148P. ISBN4-89594-317-8 C0079